

中学受験

英語長文

/分割

()<>分割

# 英語長文読解：要点チェック（受験前）

生成日: 2026-01-10 / reading-techniques: docs/private 由来（要約）

注意: 例文は学習用に言い換えています。元の本文の転載はしていません（引用なし）。

参考データ: J\_2020\_4\_sentences.txt（行数 11）を“構造の参考”として使用。

## 目次（速習）

- 1分 : /分割（スラッシュ）で骨格→情報を足す
- 1分 : ()<>分割で「主節」と「従属節/前置詞句」を分ける
- 実例 : フレーズ訳つき（6例）
- 頻出 : 文内テクニック（10枚）
- 頻出 : 段落テクニック（4枚）
- 頻出 : 設問タイプ別（4枚）

## /分割（スラッシュ）の使い方：30秒手順

1文を「意味のかたまり」に分けて、順番に“足し算”で読む方法です。

### 手順（覚える形）

- ① まず主語(S)と動詞(V)に着地（最短で骨格）
- ② 前置詞句（場所/時間/手段）や接続詞（and/because/if）で / を入れる
- ③ /ごとに「ミニ訳」を作って、最後に合体させる

コツ: /で切る目的は“訳の順番”ではなく“情報を落とさないこと”。

## ()<>分割の使い方：30秒手順

従属節（because/if/that等）を()、前置詞句（at/in/by等）を<>で括って、主節から読む方法です。

### 手順（覚える形）

- ① ()を見つけたら「後で読むメモ」にする（まず主節）
- ② <>は「どこで/いつ/どうやって」を表す“追加情報”として処理
- ③ 最後に()や<>を足して、自然な日本語に整える

コツ: because/ifを見た瞬間に()で括ると、主節の意味が崩れません。

## 実例：/分割→フレーズ訳（言い換え例）

短時間で確認できるように、代表構文だけ6例に絞っています。

### 例1：場所（前置詞句）を先に固定する

最初の場所情報を/で切っておくと、主語と動詞に早く着地できます。

例文（言い換え） In our town, we have a nice zoo called Sunny Zoo.

/分割 In our town, we have a nice zoo called Sunny Zoo.

()<>分割 <In our town>, we have a nice zoo called Sunny Zoo.

チャンク (/の単位)	フレーズ訳（目安）
In our town, we have a nice zoo called Sunny Zoo.	

### 例2：時間・追加情報を/で足す（and）

「いつ」「どれくらい」を別チャンクにすると、情報を落としません。

例文（言い換え） It will start at eleven in the morning, and we can enjoy it for thirty minutes.

/分割 It will start / at eleven / in the morning, / and we can enjoy it / for thirty minutes.

()<>分割 It will start <at eleven> <in the morning>, and we can enjoy it <for thirty minutes>.

チャンク (/の単位)	フレーズ訳（目安）
It will start	それは始まる
at eleven	
in the morning,	
and we can enjoy it	
for thirty minutes.	30分間

### 例3：理由（because）を()で“後付け”にする

主節（言いたいこと）→理由の順にすると、迷子になります。

例文（言い換え） I can't join the night tour because I have to go home by six.

/分割 I can't join the night tour / because I have to go home / by six.

()<>分割 I can't join the night tour (because I have to go home by six).

チャンク (/の単位)	フレーズ訳（目安）
I can't join the night tour	夜のツアーには参加できない
because I have to go home	

チャンク (/の単位)	フレーズ訳 (目安)
by six.	6時までに

#### 例4：条件 (if) を()で囲んで判断を早くする

条件を括ると「結論 (料金)」が一気に読めます。

**例文(言い換え)** So, if we show our student cards, the entrance fee will be three dollars per person.

**/分割** So, / if we show our student cards, the entrance fee will be three dollars / per person.

**()<>分割** So, (if we show our student cards), the entrance fee will be three dollars per person.

チャンク (/の単位)	フレーズ訳 (目安)
So,	それで
if we show our student cards, the entrance fee will be three dollars	
per person.	

#### 例5：命令・提案 (should/let's) は“行動”を先に取る

やること (take/show) を2つの動作として整理すると速いです。

**例文(言い換え)** We should take our student ID cards to the zoo and show them to the staff.

**/分割** We should take our student ID cards / to the zoo / and show them / to the staff.

**()<>分割** We should take our student ID cards <to the zoo and show> them <to the staff>.

チャンク (/の単位)	フレーズ訳 (目安)
We should take our student ID cards	私たちは学生証を持っていくべきだ
to the zoo	動物園に
and show them	
to the staff.	係の人へ

#### 例6：場所の後置修飾 (in front of ...) は名詞にくっつける

「どの停留所？」を名詞にくっつけると、順番に訳しても崩れません。

**例文(言い換え)** We'll take a bus at the stop in front of our school at eight.

**/分割** We'll take a bus / at the stop / in front / of our school / at eight.

**()<>分割** We'll take a bus <at the stop in front> <of our school <at eight>.

チャンク (/の単位)	フレーズ訳 (目安)
We'll take a bus	私たちはバスに乗る

チャンク (/の単位)	フレーズ訳 (目安)
at the stop	
in front	
of our school	
at eight.	8時に

## 頻出：文内（1文）テクニック

「これを見たらこう読む」を型で覚えると、初見でも崩れません。

### S03 挿入句（, …,）は一度外して骨格を作る

カンマの挿入は情報追加。まず主語・動詞・目的語だけを取る。

手順

1. カンマで挟まれた部分を括る
2. 括った部分を一旦除いて骨格SVを作る
3. 挿入情報を後付けする

落とし穴

- 挿入句を主節と誤認

### S05 不定詞の役割を3分類（名詞/形容詞/副詞）

to不定詞は多機能。名詞用法/形容詞用法/副詞用法のどれかに決めるに迷いが減る。

手順

1. to+V を検出
2. 直前が名詞なら形容詞用法候補
3. 文全体にかかるなら副詞用法候補
4. 主語・補語位置なら名詞用法

落とし穴

- 全部“～するために”にする

### S08 否定のスコープを括る（not, never, hardly）

否定はどこまで否定しているか（スコープ）が得点源。副詞・数量語と一緒に読む。

手順

1. 否定語を検出
2. 否定される述語・句を括る
3. 限定語（always/all/often等）が否定内か外か確認

落とし穴

- 全体否定と部分否定を混同

### S10 受動態は“行為者（by）”を探して役割を戻す

受動は主語が“される側”。必要なら能動に戻して整理する。

手順

1. be+pp を検出
2. byを探して行為者を特定
3. 能動に言い換えて意味確認

落とし穴

- 主語を行為者として読む

### S11 that節/wh節は“名詞句”として扱う（内容）

that節は“内容”。主語・目的語・補語のどの位置かを押さえると読める。

手順

1. that/wh を検出
2. 文のどこに入っているか（S/O/C）を判定
3. 『～ということ』で置換して骨格確認

落とし穴

- that を指示語として読む

### S14 名詞の後置修飾（with/for/of）を“どれを？”で読む

名詞+前置詞句は名詞を限定する。『どれを？どんな？』に答える部分として読む。

手順

落とし穴

1. 名詞の直後の前置詞句を検出
2. どれを?の質問に答える形で言い換える

- 前置詞句を動詞にかけてしまう

### S19 前置詞は“関係ラベル”として読む（原因/手段/対象）

前置詞は訳語ではなく関係。for=目的/対象、by=手段、with=付帯などで整理する。

手順

1. 前置詞句を括る
2. 関係ラベル（手段/理由/対象等）を付ける
3. 文全体の因果・対比に接続

落とし穴

- 訳語暗記で関係を落とす

### S20 長い主語は“主語の終わり”を探してVに飛ぶ

長主語はVが遠い。まず主語がどこで終わるかを見つけてVに着地する。

手順

1. 主語部分を括る（名詞句終端を探す）
2. 最初の主要動詞を見つける
3. 主語一動詞だけで一度意味を作る

落とし穴

- 主語途中の動詞っぽい語で誤着地

### S22 並列は“同じ品詞/同じ役割”で括る（A, B, and C）

and/or は並列の合図。同じ役割が並ぶので、どこまでが並列かを括る。

手順

1. and/or を検出
2. 同じ品詞・同じ役割で並列範囲を括る
3. 並列全体を一語ラベル化

落とし穴

- 並列範囲を誤って意味が崩れる

### S04 分詞構文は“同時/原因/讓歩”的れかに分類

分詞構文 (-ing/-ed) は関係が曖昧。最小で“同時/原因/讓歩”に分類して読む。

手順

1. 分詞句の主語が主節主語と同じか確認
2. 自然な関係（同時/原因/讓歩）を選ぶ
3. 接続詞（while/because/although）に言い換えて確認

落とし穴

- 機械的にbecauseで固定

## 頻出：段落（パラグラフ）テクニック

段落は“機能”で読むと、主旨と根拠の位置が見えます。

### P01 段落の役割を一言で言う（主張/理由/例/反論/まとめ）

各段落は機能を持つ。最初に“この段落は何をしているか”を一言で言えるようにする。

手順

1. 段落冒頭の主張候補を拾う
2. 後半が理由か例か反論かを判定
3. 段落機能ラベルを付ける

落とし穴

- 全部を同じ重さで読む
- 例を主張と取り違える

### P02 トピックセンテンスを探す（多くは冒頭）

受験文の多くは、段落の最初の1~2文に要点（トピック）を置き、残りで具体化する。

手順

1. 最初の2文を要約
2. 以降が具体化か検証

落とし穴

- 最初の比喩や導入をトピックと誤認

### P03 段落内の“対比”を見つける（however, but, in contrast）

対比マーカーは論点の転換点。前半と後半を“同じ軸で比較”する。

手順

1. 対比語をマーク
2. 前後の比較軸（利点/欠点など）を一語で言う

落とし穴

- but以降だけ読んで前半を捨てる

### P04 因果の矢印を作る（because/therefore/as a result）

因果マーカーは『原因→結果』の矢印で整理すると、設問の根拠が取りやすい。

手順

1. 原因側と結果側を分ける
2. 矢印で1行にする

落とし穴

- because節を背景説明として捨てる

## 頻出：設問タイプ別（解き方）

本文の読み方と、設問の取り方はセットで覚えるのが最短です。

### Q01 主旨（Main Idea）：反復テーマ+結論段落で確定

主旨は“繰り返されるテーマ”と“結論の一般化”的交点で決まる。

手順

1. 各段落のキーワードを2語ずつ拾う
2. 結論段落の一般化を抜く
3. 広すぎ/狭すぎの選択肢を除外

落とし穴

- 印象的な例で主旨を決める
- 1段落だけで主旨を決める

### Q02 要旨（Summary）：構造を残して詳細を落とす

要旨は“骨格（問題→原因→提案など）”を保持し、固有の数字・例を捨てる。

手順

1. 本文全体の枠組み（problem-solution等）を決める
2. 各段落を1行要約
3. 例・数字・固有名詞を削って結合

落とし穴

- 例を残して骨格を落とす

### Q03 推論（Inference）：根拠2つ+限定語を保持

推論は最低2つの根拠から。限定語（some/often）を落とすと誤りになりやすい。

手順

1. 根拠文を2つ抜く
2. 共通して言えることを1文にする
3. 限定語を保ったまま結論にする

落とし穴

- 根拠1つで飛躍
- 限定語を落として断定

### Q04 指示語（Reference）：名詞候補+文候補で確定

this/that/these は物だけでなく“直前の主張や出来事”を受けることがある。

手順

1. 直前2文から候補を列挙（名詞/文）
2. 意味が通る方を選ぶ
3. 選んだ候補で文全体が自然か再確認

落とし穴

- 最寄り名詞に機械的に結ぶ